

阿蘇の草原とは

アキノキリンソウ

人々の生業とともに維持されてきた千年の草原

阿蘇の草原は、平安の昔から放牧、採草、野焼きなど地域の人々のなりわいの場でした。放置しておくとも遷移が進み、森林になってしまう阿蘇の草原が今あるのは、これらの営みが続けられてきたことによるものです。この草原は、様々な文化を育むと同時に、多様な動植物が生息・生育する特有の生態系を有しています。これらは、長い歴史に支えられた阿蘇にしかない資産であり、自然と人間が共生する文化の象徴として失ってはならないものです。



冬場の飼料となる草小積みづくり
(昭和30年ごろ)

阿蘇の草原の価値

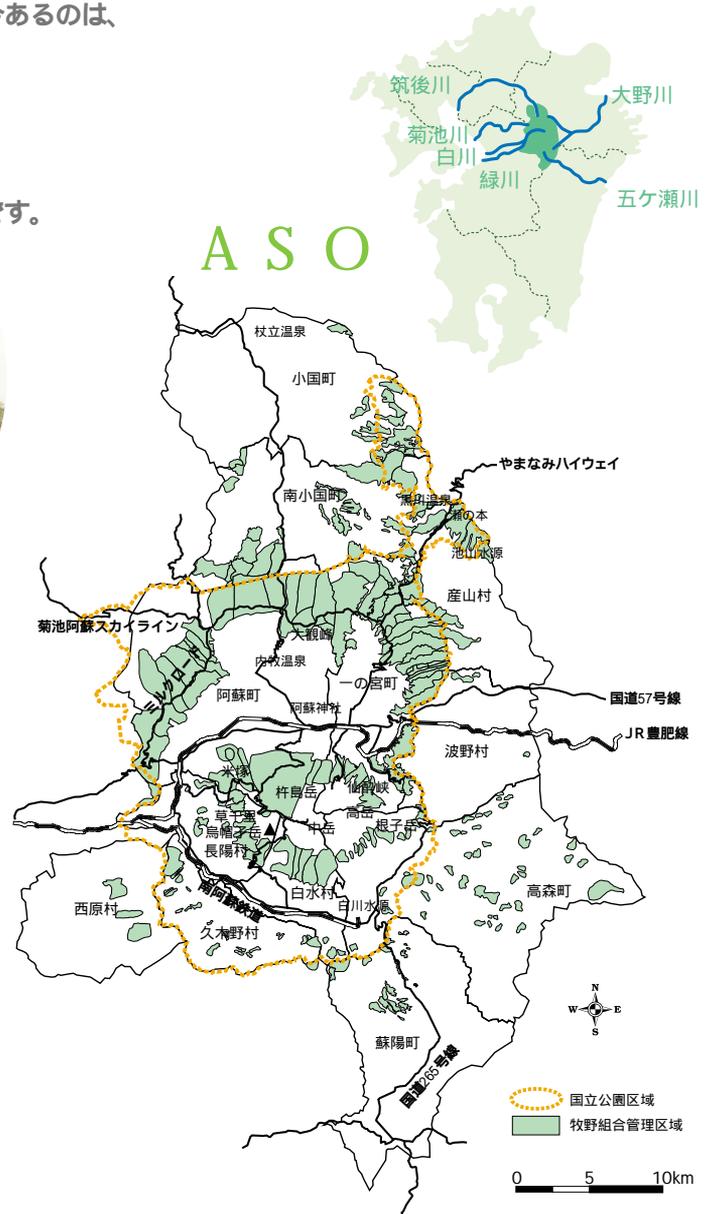
広大な草原景観

阿蘇は、1934年に指定を受けた70年の歴史を持つ国立公園です。東西18km、南北25km、周囲128kmに及ぶ世界最大級のカルデラ地形の上に広がる広大な草原と、牛馬が放牧されているのどかな景観は、年間1800万人以上の人々が訪れる大きな観光資源です。

国土を守る九州の水がめ

阿蘇の草原は、九州中部から北部にある6本の一級河川の源流にあたります。これらの河川によって約220万人の飲み水がまかなわれています。

また、草原が管理されずに放置されると、「霜崩れ」という土砂流出が起こったり、火災の危険性が高くなるなどの問題が起こるとされ、草原が健全に保たれることは国土の保全にも重要なことです。



ツクシマツモト



ヒゴタイ



キスミレ



オオルリシジミ

草原特有の動植物の生息・生育空間

阿蘇の草原は、九州が大陸と陸続きであったことを物語るヒゴタイ、ツクシマツモトなどここでしか見ることができなくなった希少な植物をはじめ、豊富な草原性植物や草原特有の野鳥や昆虫が生息する場となっています。



オキナグサ

自然観察などの環境教育や都市住民との交流の場

阿蘇では様々な自然観察会などが開催され、より深く自然環境に触れることができます。また、グリーンツーリズムや草原維持のためのボランティア活動を通して、都市と農村の住民が交流を深める場となっています。



放牧・採草を通じて農業・畜産を支える場

阿蘇では、火山灰土壌、高冷地という条件下で農業が営まれています。かつて草原利用は水田耕作や畑作と密接に結びつき、牛馬の放牧や飼料用の干草を得るだけでなく、水田の緑肥や屋根を葺く材料をあつめていた時代もありました。

現在、阿蘇は九州でも有数の肉用牛生産基地であり、繁殖雌牛の放牧や肥育牛等の飼料生産の場などとして草原が利用されています。

繁殖雌牛：肉用牛として出荷するための子牛を産ませるための雌牛。

草原に放牧されているのは繁殖雌牛と10ヶ月未満の子牛。

肥育牛：肉用牛として畜舎で飼われ、生後24カ月程度（あか牛の場合）で市場に出荷される牛。

入会地として牧野組合による管理を通じて維持

阿蘇の草原のほとんどは、集落ごとに定められた入会地です。入会地の使用権を持つ入会権者はそれぞれ牧野組合を組織し、採草、放牧などに入会地を利用するとともに、野焼きや輪地切りなどの維持管理作業を行っています。

175 牧野組合

入会権者戸数： 約10,000戸
うち有畜農家戸数： 約1,800戸

牧野総面積

約23,000ha

野焼き出役者数

約7,600人

野焼き面積

約16,500ha

輪地切り出役者数

約5,400人(平均年齢:53歳)

輪地切り総延長

約640km

資料：平成10年阿蘇郡牧野および牧野組合現況調査



野焼き：野草地に火をつけて、草原を焼く作業。春の彼岸を中心に一斉に行う。低木の生長を抑え、牛や馬が好んで食べる草の生育を促すことが目的。



輪地切り：牧野と森林などの境目を10mほどの幅で刈り、野焼きの延焼を防ぐ防火帯を作る作業。夏～秋の暑さの残る時期に行い、急斜面での作業も多い。

4タイプの二次的草原には独自の生態系が成立

ひとくちに阿蘇の草原といっても、実際は農業・畜産による利用と管理や地形の違いから、大きく分けて4つの質の異なる二次的草原と改良草地で構成されています。

採草地

年数回の草刈り以外は手を入れないため、様々な植物が育つ長草型草原となる。米塚や大観峰がその典型。先祖に供える花を摘む「盆花採り」の場ともなる。

(ススキ、ハナシノブ、ヒゴタイ、ヤツシロソウ、ツクシマツモトなど)

放牧地

放牧された牛や馬が草を食べたり踏みつけたりするので、丈の低い植物が多く生育する短草型草原となる。草千里はその典型。(ネザサ、トダシバ、オキナグサ、ワラビ、オオルリジジミなど)

茅野

秋に採草せずに野焼きだけ行うため、ススキが密生する比較的単純な生態系の長草型草原となる。

改良草地

原野を改良して栄養価の高い西洋牧草を栽培している。多様な植物が生育する二次的な自然草原とは、質的に異なる。(クローバー、オーチャードグラスなど)

(ススキなど)

湿地性植物群落

草原に点在するくぼ地にできた小さな湿地では特有の植物が多く生育している。長草型草原に分類。(モウセンゴケ、サギソウ、ツクシフウロ、ヒゴシオンなど)